

「グリスロでまちづくりをつなぐ」次世代に継承する持続可能な地域づくり共創事業

応募様式A

萩の台住宅地グリスロ導入実証共創プラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	生駒市(公共交通)
事業実施地域	生駒市萩の台住宅地
共創の種類	官民共創 ・ 他分野共創
他分野共創の種類	エネルギー・環境 ・ 地域・移住 ・ まちづくり
共創パートナー	萩の台住宅地自治会 ・ いこま市民パワー(株) ・ 生駒市(ニュータウン再生・再編 , SDGs推進)
運行形態	道路運送法における許可又は登録を要しない運送 ※令和6年3月1日「道路運送法における許可又は登録を要しない運送に関するガイドライン Ⅲ-4 自治会等の活動として、会員向け運送サービスを行う場合」の活用を想定 (地域住民によるボランティア輸送)
運行主体	萩の台住宅地自治会

取組の概要

(現状の地域課題と事業目的)

住宅開発から約40年が経過、オールドニュータウン化が進行する中「自治会中心の活発な地域活動」「子育て世帯中心の、空き家・未利用空間活用を図るニュータウン再生」「脱炭素先行地域づくり」が現在進行中。ニュータウンでのラストワンマイルとしてグリスロを運行、高齢者等の駅やお店までの移動手段を確保に加え、まちづくりを「つなぐ」ことで、持続可能な次世代の住宅地づくりを推進する。

(事業の概要)

活発な地域活動を展開中の萩の台住宅地自治会が中心となり、運行体制を構築。市は車両の貸与、運行計画・実証運行・周知等自治会と連携実施。グリスロの動力は、地域内で発電する再生可能エネルギーを用い、二酸化炭素排出実質ゼロの運行を確立。さらには、地域の生活拠点の駅や店舗に加え、空き家・未利用空間を活用した地域内の新たな「人が集う場」をグリスロでつなぎ、地域全体の活力を創出。既存コミバスと比較検証し、地域に適応する最適な移動手段の導入を図る。

事業の全体像・共創の仕組み

(既存事業)

地域脱炭素移行・再エネ推進

いこま市民パワー(株)

- ・ 地産の再生可能エネルギーの供給
- ・ 住宅地建物・自治会館に太陽光発電・蓄電設備の設置促進

生駒市 (SDG s 推進課)

- ・ いこま市民パワー(株)電力事業と地域コミュニティの活性化を通じた脱炭素先行地域づくりの推進

地産電力

実施・運行主体

萩の台住宅地自治会

- ・ ボランティア輸送によるグリソロの運行
- ・ 地域まちづくりとの連携

実証に向けた支援

運行計画・グリソロ貸与・プロモーションetc

実施主体

生駒市 (事業計画課)

- ・ 日常生活に必要な移動手段の確保
- ・ 持続可能な地域づくり

目的地

(既存事業)

ニュータウン再生・再編

子育て世帯@萩の台住宅地

- ・ まちの余白活用 (公園活用:いこーえん)
- ・ 自宅を街に開く「住み開き」etc

生駒市 (住宅課)

- 子育て世帯の転入・定住促進
- ・ 空き家の流通促進
 - ・ 未利用空間の有効活用

取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

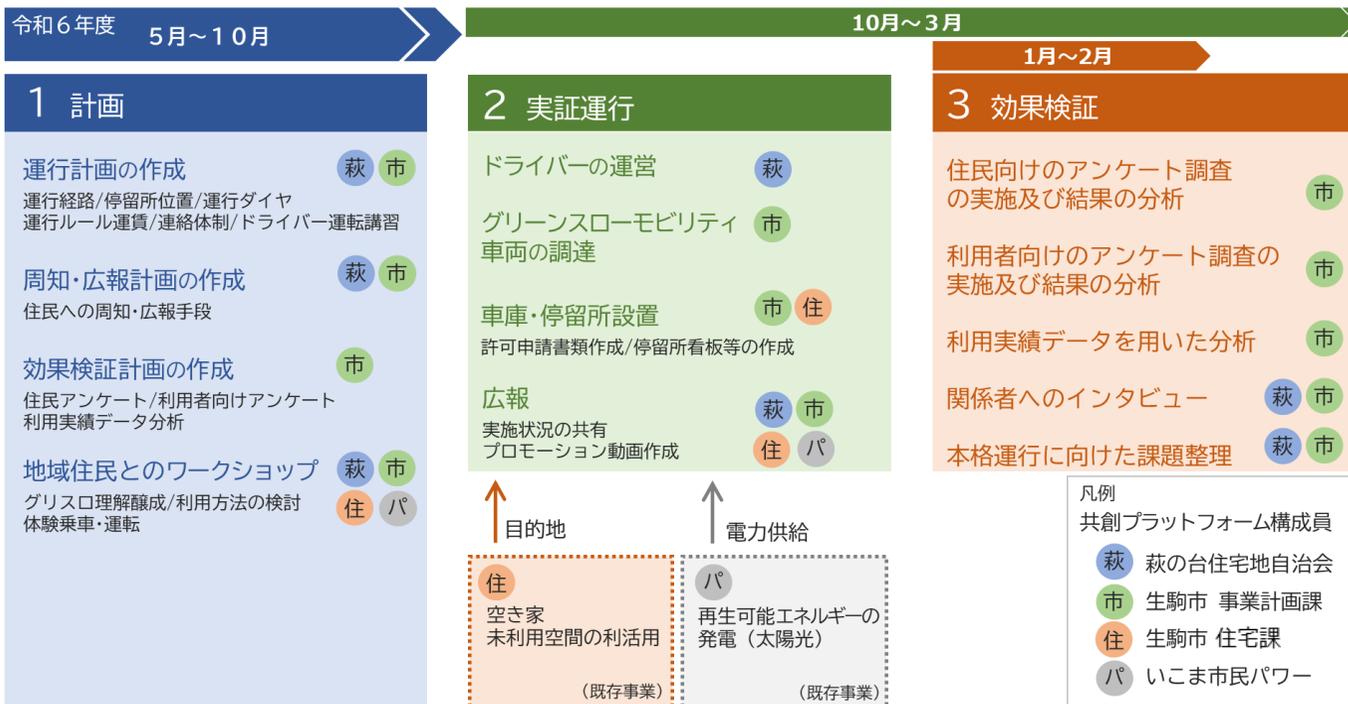
「萩の台住宅地自治会」が運行主体を担うとともに、現在推進中のまちづくりの中心となり、オールドニュータウン化が進む地域の再編を図る。地産の再生可能エネルギーを動力とするグリソロで、空き家・未利用空間を活用した「新たな集いの場」や、既存の地域拠点「自治会館」「駅」「店舗」などの生活拠点をきめ細やかに「つなぎ」、次世代に継承できる持続可能な地域を形成していく。

(実証事業により見込まれる効果)

- ・ 住民ニーズに適応した運行による、利用者の活動機会の増加
- ・ 地域の回遊性向上による、ニュータウン再生・再編事業の参加者の増加
- ・ ボランティアドライバーとしての事業参加による、地域の担い手の増加

取組の詳細

（事業実施手順・スケジュール）



（補助事業実施後の予定）

- 地域に適応する持続可能で最適な移動手段について、既存たけまる号と比較検証
- 地域住民の移動手段として定着した後、グリスロを本格運行に移行
- 市は、車両の貸与・維持管理・保険等を継続して費用負担
- 脱炭素化、ニュータウン再生・再編と連携を図り、持続可能な次世代の住宅地づくりを推進
- 「萩の台住宅地」での実証を踏まえ、「住宅都市 生駒市」に多く存する他のオールドニュータウンへの横展開を図る